

# 2024年度・青梅療育キャンプ(島田ゼミ主催)

## 振り返り

2024年8月19~20日実施

2024年9月8日 加藤春也

### 【概要】

年に1回、明星大学教育学部の島田博祐先生(特別支援教員コースに所属)のゼミが主催している子どもキャンプで、主に発達障害を持った子ども達が参加している。昨年から1泊2日のキャンプが再開したことで、リピーターとなる子ども達の参加に加え、今回は初参加の子ども達が多く、全体的に参加人数が多かった。しかし、その一方で学生の人数が例年より少なかったため、例年のマッチング(子どもと学生が1対1)が出来ず、グループ(例:子ども5人に学生3人)になって行動することが多かった。また、青梅療育キャンプに関しては「事前交流会」と「本番であるキャンプ」がセットになっている。

参加学生 32名

8月12日

事前交流会(明星大学)

【午前】お勉強タイム(19-203)

【午後】学生が考えた企画(体育館)

8月19日~20日

青梅キャンプ

【1日目】明星大学 or 拝島駅から貸し切りバスで名栗元気プラザに移動。⇒外と中でグループごとにアクティビティ⇒キャンドルファイヤー(雷が怖かったです…)

【2日目】貸し切りバスで花木園に移動。⇒ウォーキングラリー⇒明星大学 or 拝島駅に戻る。

《以下、明星大学のホームページから》

[教育学部の学生が「青梅療育キャンプ」を開催しました | 明星大学 \(meisei-u.ac.jp\)](#) (2022年)

[教育学部の学生が「青梅療育キャンプ」を実施しました | 明星大学 \(meisei-u.ac.jp\)](#) (2023年)

### 【事前交流会の感想】

初参加の子達が多くてドキドキの連続でした。顔と名前を覚えるので必死でしたが、顔と名前を覚えることがその子どもとの信頼関係を築く第一歩になるので、私が関わる子どもの顔と名前を覚えることが目標でした。その内の1人が小学校1年生の男の子でした。彼は保護者がいないキャンプ自体が初めてということで、最初に会った時はお母さんの後ろに隠れていましたが、1時間も経つと勉強の時間に「絵を描きたいから紙をちょうだい!」と本人から発していました。昼食を本人が早く食べ終わって「お散歩しても良い?」と何回も私に聞いてきました。本当は外でお散歩出来たら良かったのですが、彼のお母さんが「集団で動くんだから一人で勝手なことをしないの!」と理解を示してくれたおかげで私自身も安心して言葉がけ出来ました。子どもの「やりたい!」と集団行動のバランスを取るのが本当に難しく、この時彼には「そしたら12:15になったらこの建物を一緒に散歩しよう!それまではお昼ご飯を食べたいからここで待てるかな…?」と聞くと「良いよー!」と答えてくれました。子どもに

とって納得がいく、言い換えるとその子どもに寄り添った言葉がけを意識していくことで、力で指導することが減ると感じました。

事前交流会が終わった後に30分だけ彼含めて子ども達が遊んでいる間に彼の保護者と話す時間があったので、色々とお話させていただきました。例えば子どもとの関わりに関して、大学生は体力がすごいわ!とお母さんが驚いていました。「〇〇(彼の名前)も最初は来たくない!って言っていたくせに、来るとすごく楽しそうで連れてきてよかったです。」と伝えて頂いたことが何よりも嬉しくて、なかなか集団で遊ぶ機会が少ないからこそ、こういう機会を活用して集団で行動することも学んで欲しいと話してくれました。一教員として、行事を通してその子に目指している姿はどんな姿なのか、それに即した目標設定をどうするかは考え続ける必要があると感じました。

### 【キャンプの感想】

今回で3回目の参加ということもあり、大体のイメージはついていました。当日までの準備は英語コースの併修で手一杯でほとんど参加していなくて協調性がなさすぎなので、正直気が重く不安な部分が大きいです。少しでも協力できる場所があれば力になりたいと思っていました。子どもも私が担当する子どもだけではなく、他のグループの子ども、そして私が知っている後輩達(1・2年生)も何人か参加していて、せっかくなら子どもだけではなくて、学生の顔と名前も覚えようと思いました。3年生で経験者(自分で言うのも恥ずかしいですが)&最高学年ということもあり、全体を見ることに重きを置いて行動するように心がけました。

当日もマッチング形式ではない中、学生の人数が少なくて大丈夫かなと不安が拭えずに当日を迎えてしまって大丈夫かなと思うばかりでした。しかし、昨年やおとしに会った子どももいたので、私に気づいて手を振ってくれる子どももいて嬉しかったです。移動中のバスの中ではひたすら「聞き役」に徹していました。バスで隣だった男の子とポツンと一軒家・ポツンと車・ポツンとバスを探そうと国道299号に入ってから探しましたがなかなか見つかりませんでした。バスのマッチングと活動中のグループは関わる子どもが違うので、個人的にはもう少し関わりたかったな~と感じました。活動中における安全管理はより一層気を付けるように心がけました。具体的には水分補給の促進を徹底すること、子どもが勝手にどこかに行かないように周りを見続けながら行動すること、集団の動きを察知しつつ、子どもの発信(言葉や表情から)を確実にキャッチすることです。全て完璧に出来たとは思っていませんが、おとしや昨年よりも出来るようになったかも!の実感が大きいです。これは普段通っている運動療育のボランティアのおかげでもあります。

1つ気になったことは食事で残してしまう子がかなり多かったことです。異常気象が続いている中、平気で「食べられない~」とこんなに残す子どもがいるとなんだか悲しくなっていました。施設の方々やお弁当屋さんが作っている食事を大切にいただく気持ちは運営する側が意識して作っていくことが大切だと感じました。私なら「この食事は名栗元気プラザの職員の方々が作ってくれた食事だから、もし食べきれなくて残しそうな子どもがいたら、おかわり用にこちらに入れて下さい。」等と一つ工夫するだけでも食品ロスは減らせると感じました。施設の方が事前によそってくれたものが置かれているので、量の過不足は致し方ないと思いますが、〇〇食べたかった!という子どもがいると悲しくなっていました。普段の食育がどれだけできるかで子ども達の意識も変わると感じました。

就寝時刻になって、他の学生達がミーティングを行っている中、事前交流会でお会いした小学校1年生の男の子が突然私が寝ているところに来て泣き出してしまいました。「うね~ん 😞 お母さんに会いたいよ~!!」とかなり

泣いていたので、優しくトントンしながら「大丈夫だよ。明日はウォークラリーでね、〇〇と〇〇をやるんだよ!」と声をかけると少し安心しつつも、でもお母さんに会いたい😞と涙が止まらなかったもので、ゼミの学生に相談しに行ったほどでした。しかし、「今回〇〇くん、初めてキャンプに参加してすごく不安だったと思うけど、他の子は5年生とかで自然教室に行くのが初めてなのに、1年生で参加していてすごいよ!」と小声でささやくように褒めました。今回初めてのキャンプでいつも一緒に寝ているお母さんがいなくてすごく寂しい中、1人で活動に楽しそうに参加していたり、他の子どもと楽しそうに関わっていたりしている様子をお母さんが見たら嬉しいだろうな～と感じて見っていました。夜中は「早くおうちに帰りたい～😞」「何時になったらお母さんに会えるの?」と何回も言っていたのでそれだけ寂しかったんだな…と感じてしまいました。その子だけ見ても色々教えてもらったな…と私自身の未熟さを感じていました。その子に100%寄り添うことは難しいと実感しました。(2日目の昼食で配られたウーロン茶の緑茶の違いつてなに?って聞かれた時も苦いか苦くないかで答えてしまいました…)

終わってから感じたこととしては、まずは私が青梅キャンプに毎年参加するとは思わなかったもので、毎年青梅キャンプで会える子ども達の成長を見るのがとても楽しかったです。あんなに小さくてゲームにばかり熱中している子の体が大きくなっただけではなく人との関わりを楽しんでいる様子を見て、すごいな!の連続でした。そして企画していた他の3年生が頼もしくて学生の人数が少ない中で色々工夫して運営をしていたのが本当に尊敬でした。子どもを「見る」ことの大切さを実感できました。毎年参加しているのに新鮮に感じているのは子どもや学生のメンバーもあると思いますが、それに加え自分自身の成長を感じられた3回目の青梅キャンプでした。留学1週間前を切っている中で、よく行けたな!とつい感じてしまうほどです。